

■ 石油・外交・帝国主義の交差点を読み解く、唯一無二の一次史料集

アラブ湾岸諸国に関する英国の諜報

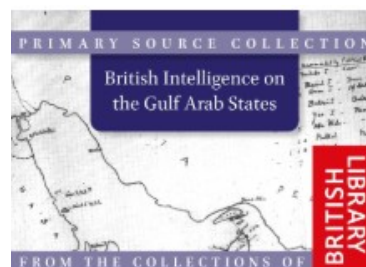
1914~1948 年頃

British Intelligence on the Gulf Arab States, c. 1914–1948

石油発見から近代国家形成まで一湾岸の地政学的転換点を記録

20 世紀前半、湾岸アラブ諸国は大きな変革の時期を迎えました。ヨーロッパとアジアを結ぶルート上に位置するこれらの小さな砂漠の首長国は、その戦略的重要性と地政学的な影響から、長年にわたり国際的な関心を集めてきました。しかし、1920 年代から 1930 年代にかけて莫大な埋蔵量が期待される石油が発見されたことで、これまでにない変革が始まり、最終的には現代の活気ある強力な都市国家へと発展しました。

この時代の歴史を知る上で、インド省の政治・秘密部門のアーカイブは極めて重要な資料群です。本コレクションは、J. G. ロリマーによる有名な『ペルシア湾地方誌』に始まり、機密報告書、地図、ハンドブック、印刷された覚書、さらには政策関連の文書を含む一次資料を収録しています。これらの文書は、当時の外交・経済交渉の詳細な背景や、この地域における国際的な利害関係を明らかにするものであり、今回初めてオンラインで完全公開されることになりました。



J. G. ロリマーの『地方誌』

1903 年、インドを統治していたイギリス政府は、湾岸地域における帝国の権威を確立するため、包括的な地方誌（ガゼティア）の編纂を命じました。この作業を担当したのは、インドの政治局に所属する官僚、ジョン・ゴードン・ロリマーでした。彼は、当時のインド総督カージャン卿が湾岸地域を視察する際に同行し、英国の支配力を誇示する目的も兼ねて調査を行いました。

この『地方誌』は政府専用に印刷され、「極秘」扱いとされていました。最終的に 1915 年に完成し、当初の計画を大幅に超える内容となりました。今日では、湾岸地域に関する最も重要な研究の一つと広く認識されており、地理、地形、歴史、経済に関する詳細な情報が網羅されています。本コレクションの最初の資料であるロリマーの『地方誌』は、現在でも湾岸諸国を研究する際の出発点となる貴重な資料です。

大学・学術機関向け

買い切り (Outright Purchase)・同時アクセス無制限

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの年間管理費 (Annual Hosting Fee) は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社まで別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

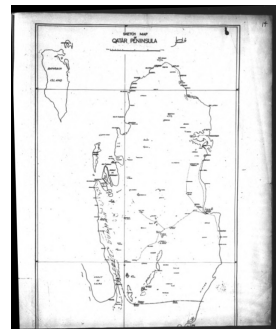
03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp

石油

湾岸地域における石油探査は 20 世紀初頭、まずペルシア（イラン）側で始まりました。第一次世界大戦を通じて、石油供給の管理が極めて重要であることが明確になりました。戦後、湾岸アラブ首長国における最初の石油交渉は、世界の工業大国の関心を引き寄せ、石油事業の潜在的な利益だけでなく、戦略的・経済的な影響が注目されるようになりました。

この時期、石油関係者、交渉人、地質学者、技術者などが続々と流入し、大規模な外国人コミュニティが形成されました。これにより、湾岸地域の通信網やインフラ整備が進み、アラビア湾沿岸の航空路の開発にも寄与しました。同時に、湾岸の小さな島々の領有権を巡る交渉も進められ、これらの交渉は石油・通信問題に関連する場合もあれば、純粋に戦略的な目的で行われることもありました。



1939 年に第二次世界大戦が勃発すると、英国岸の各アラブ首長国や水路に対する防衛措置を講じることに関心を寄せるようになりました。

英国と湾岸諸国の関係

この経済・社会・政治的な変革期において、英国は湾岸地域で圧倒的な影響力を行使していました。各国に駐在するイギリスの政治代表や顧問を通じて、地域のあらゆる側面を観察し、報告を行っていました。湾岸アラブ諸国は、インド亜大陸に近接していたため、英領インド帝国の行政圏に組み込まれる形となりました。そのため、英国政府のインド省の政治・秘密部門のアーカイブは、湾岸地域の歴史を研究する上で極めて重要な資料となっています。

湾岸首長国との外交関係は、現地の英国の政治代表によって管理されていました。1948 年までは、ペルシア側のブーシェフルに駐在する Political Resident がこの役割を担い、さらにバーレーン、クウェート、マスカット（オマーン）、シャルジャ（UAE）には Political Agents や地元の英国官吏が配置されていました。

これらの駐在官や代理人は、ボンベイ、カルカッタ、デリーの英国行政機関に直接報告を行い、最終的にはロンドンのインド省に属する「政治・秘密部門」が監督していました。この部門は、外務省、植民地省、陸軍省、空軍省と連携し、湾岸政策に関する議論を行う役割も担っていました。

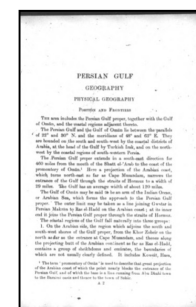
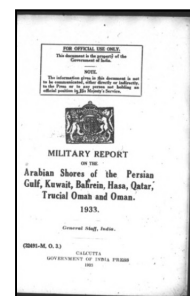
■文書のタイプ別に全 4 セクションに整理されたアーカイブ

1. **Gazetteers and Handbooks, 1907–1940**
2. **Oil Exploration and Oil Concessions, 1912–1949**
3. **Strategic Interests in the Gulf, 1914–1951**
4. **Trade and Communications, 1926–1949**

本コレクションの資料は、湾岸諸国の経済的・国際的側面に焦点を当てています。

第1部の **Gazetteers and Handbooks** には、軍事・海軍・水路測量の報告書や外交条約が含まれています。しかし、それだけでなく、歴史・地理・社会・部族・人物に関する幅広い情報も収録されています。第2部から第4部 にかけての **Political and Secret departmental papers** には、国際および地域の外交交渉に関する政策ファイルや関連文書が含まれています。主な内容は以下の通りです。

- 湾岸の島々の主権や沖合の境界紛争に関する問題
- 石油資源の開発・採掘に関する文書（譲歩契約や探査協定の締結書を含む）
- 湾岸地域の航行や貿易に関する報告書・調査書
- 航空およびアラビア湾の航空路の発展と利用に関する文書（飛行場・休憩所・着陸権に関する地元統治者との協定を含む）

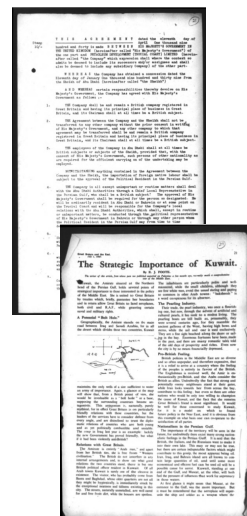


また、ファイルには湾岸諸国の統治者との書簡や協定など、多くのアラビア語文書（すべて英訳付き）も含まれています。

クウェート、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦、オマーンの経済発展や、それらの国同士および世界との関係については、英国官僚による定期的かつ詳細な報告書に記録されています。さらに、英国および国際社会の視点は、省庁間会議の議事録、外交書簡、政府間の協議記録などに反映されています。

特に興味深いのは、インド省の高官によるタイプ打ち、または手書きのメモの中に見られる洞察です。時には、文書の余白や小さな紙切れに書き込まれた走り書きの形で残されており、例えば以下のような人物による記述が含まれています。

- Sir John Shuckburgh, "JES" (1917～1921 年の政治部門長)
- J.C. Walton, "JCW" (1929～1936 年の政治部門長)
- Sir F.A. Hirtzel (インド担当次官)
- Sir Gilbert Laithwaite (インド担当次官)



彼らの記録は、湾岸地域に対するイギリスの視点を知る上で、極めて貴重な資料となっています。

なお、本コレクションのハンドブックや地方誌、さらには各部門の文書には、多数の地図も収録されています。これらの地図には、地形、居住地域、交易路、国境、譲歩契約の範囲、島々、港湾などの情報が詳細に記載されています。これらの地図の多くは、かつて「極秘 (Secret)」 「最高機密 (Top Secret)」 「機密 (Confidential)」 に分類されていたものです。

